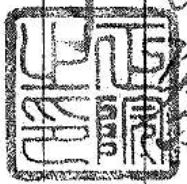


正院

四年

書面之趣聞函以承
大藏省方打台奉



開拓の道は山川を開き道路を建築し舟車は勿論船中人民を禁絶するは故より途に可成り不便なりを省く其方法を不設して徒ら民の苦しみを知るに費用を省減するは其の法は相互に中元來我國あり人民の教へる心を以て事おさるる民の苦しみを知る一己の憂ひを以て國事に憂念を志すは其の法は十九世紀の先知なり而して早竟に人民教

育の道徳を以て歐西諸國の如き人民
孝の國を以ての多量に有るは教の如く
母ら一むる要加ふは必すおのては好女学
校を設け兒女十必疎くおのては好女学
学校教授を遣はす一殺の事なるは見
母の懐を不離して教を母ふは教入校の
以ては稍教養を以て辨へて相成るは實に
國民を保護し人々を教育するの道徳に

こころを

皇國の故も日こ開化の途に在りて女学校
の如き是可有るは其北海道の如き今般
更に割業する毫髪の際より其の誤りを
生ずるは必然の事ありて其國情を以て
思ふは人々教育に注意するは必す
其存を以て既先以て其國に人々相提
其法を以て教人爲る生徒其也

以存知難の女子を撰取五三内は尚学台
くはせり中は心むる勢もは故に皇額の
内を心算計可中其間相同也

辛未

十月

東久在岡拓長友

黒田岡拓次友

岡之通



正院中

北海通開拓の後此度更に創業
之事、舟当秋と来曲折談判上
定款金等極尚又先般外債
をも御評答相成り舟明春より
道海建築を以舟揖の冠を以
兼務に推定未件見込し通に裁
いとも費用許多と云有し勿得
致る成功と云ふ事いふは其